現場で役立つ情報コーナー

著／デイビッド・チェニー

木造住宅における水分コントロール

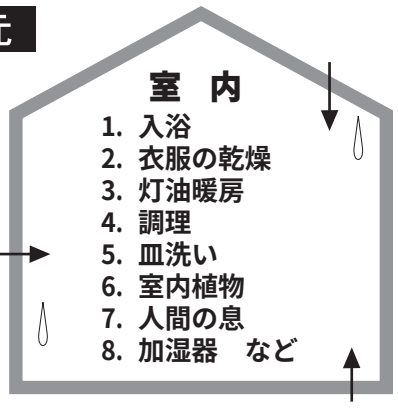
木造の住宅において水分のコントロールはおそらく最も重要な問題で、これが正しく対処されれば、建物の寿命を長く保つことができる。水分のコントロールが正しくなされないと、木の腐敗、壁や床の被害、カビ（壁の表面など）、虫の繁殖、湿った不健康な室内空気などの原因となり、建物・人体ともに悪影響を及ぼす。特に窓は、水分コントロールのために重要な要素となる。外壁の開口部として窓の占める数は大きく、窓から入る水分は建物に深刻な影響を与えるのだ。

現代の人々は暖かく乾燥した環境を好むため、建築資材や工法も人々の趣向にあったものへと改良されてきた。今では、サイディングとその塗料は防水性のものが出回っている。窓やドアは隙間風が入り込みにくい設計となり、ドライウォールは室内の空気の流れを妨げている。電気配線用のボックスにまで、空気が入らないように工夫されている時代だ。このような工法では、従来のように空気が室内に入り込まないため、前もって室内を乾燥させるための対策を講じておかなくてはならない。建物の含水率が28%を超えると、木中の腐敗菌が木を食い始め、長期間これを放置すると構造的な欠陥が現れ始めてしまい、取り返しがつかないこととなる。木を健康に保つ――、それには、まず水分をコントロールすることが第一の手段となるのだ。

さまざまな水分の発生元

外　部

1. **ハウスラップに穴があいて、建物の外皮部分から水が浸入する。**
2. **屋根に穴があいて、建物に水が浸入する。**
3. **床下から建物に水が浸入する。**



外部からの水の浸入を完全に止めることは不可能だが、木造の構造体に水が入らないようにする対策はある。日本の気候や横から吹きつける暴風雨などの条件下では、このような対策は欠かせない。木造構造体に水分が入らないようにするための対策には右記の方法がある。

外部からの水の浸入をコントロールする方法

❶ できる限り雨が外壁に当たらないようにするため、建物全周に軒を設ける。

❷ 縦や斜めのサイディングの使用を避ける。

❸ 第一に物理的な手段で水の浸入を防ぐ。防水材やシールを使い、水が自然に流れ落ちるように重なり部分を処理し、構造体から障害なく流れ出るようにする。強風で雨が上向きに吹き付ける場合もあるので、ハウスラップの重なりを充分にして、中へ入り込まないようにする。

❹ 化学物質やコーキング材は、水分に対する第二の手段として使うこと。このような素材には有効年数に限界があるが、自然の引力は変わらない。コーキング材のシーラントは、水分や日光にさらされないハウスラップの裏側に使うと効果がある。毛細現象で水分が上がってくるのを防ぐ。ハウスラップの層をつなげるのにはシーラント